平成24年度 学校・教育機関における 個人情報漏えい事故の発生状況

一調査報告書一



学校の個人情報漏えい事故の発生状況について

- ◆ 本資料は、平成24年度(平成24年4月1日~平成25年3月31日)に 学校、教育機関、関連組織で発生した、児童・生徒・保護者らの個人情報を 含む情報の漏えい事故についての公開情報を調査し、集計したものです。
- ◆ 学校や自治体が発表・公開した情報を集計しています。
 発生したすべての情報漏えい事故を網羅したものではありません。



平成24年度 事故発生件数・個人情報漏えい件数

◆ 平成24年度は、172件の個人情報の漏えい事故が発生。 延べ31,743人の個人情報が漏えいしました。

事故発生件数

172件

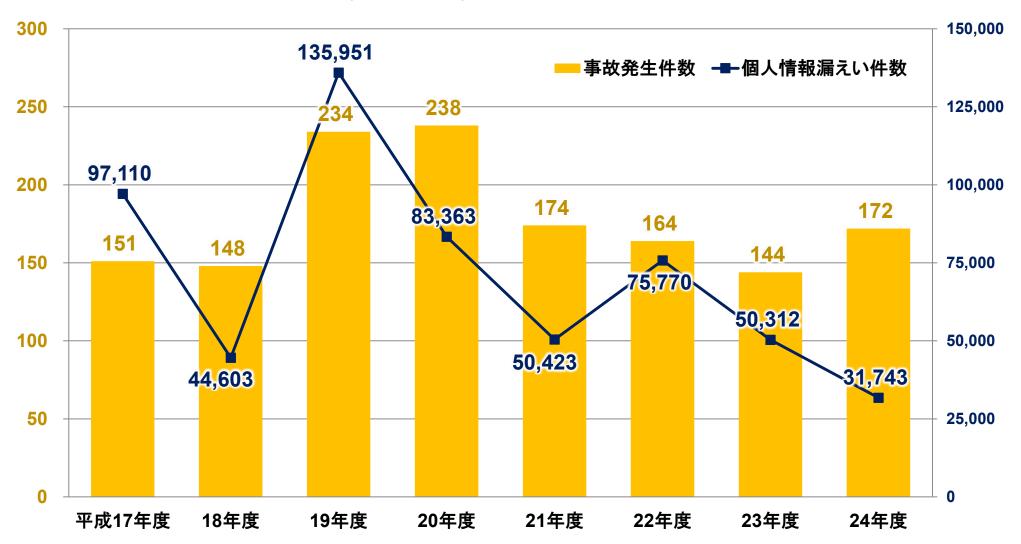
平均すると 事故1件あたり 約185人の 個人情報漏えい

個人情報漏えい件数

31,743件

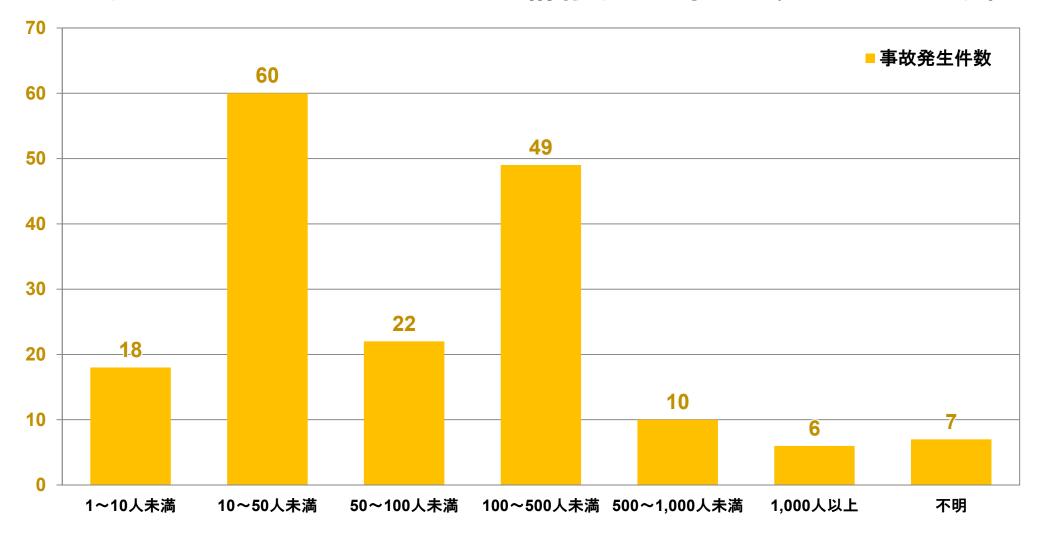
事故発生件数・個人情報漏えい件数 過去8力年の推移

◆毎年、200件前後の個人情報漏えい事故が発生しています。 個人情報漏えい件数は、年度によってばらつきがあります。



平成24年度 個人情報漏えい件数別 事故発生件数

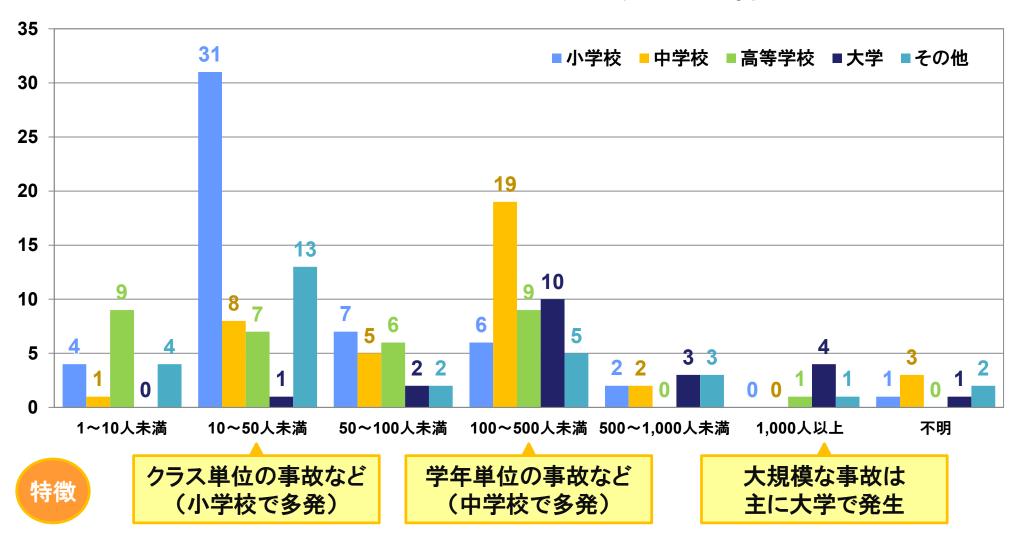
◆ 1人の個人情報が漏えいしたものから、1,000人以上の個人情報が漏えいしたものまで、さまざまな情報漏えい事故が発生しています。





平成24年度 漏えい件数別・学校種別 事故発生件数

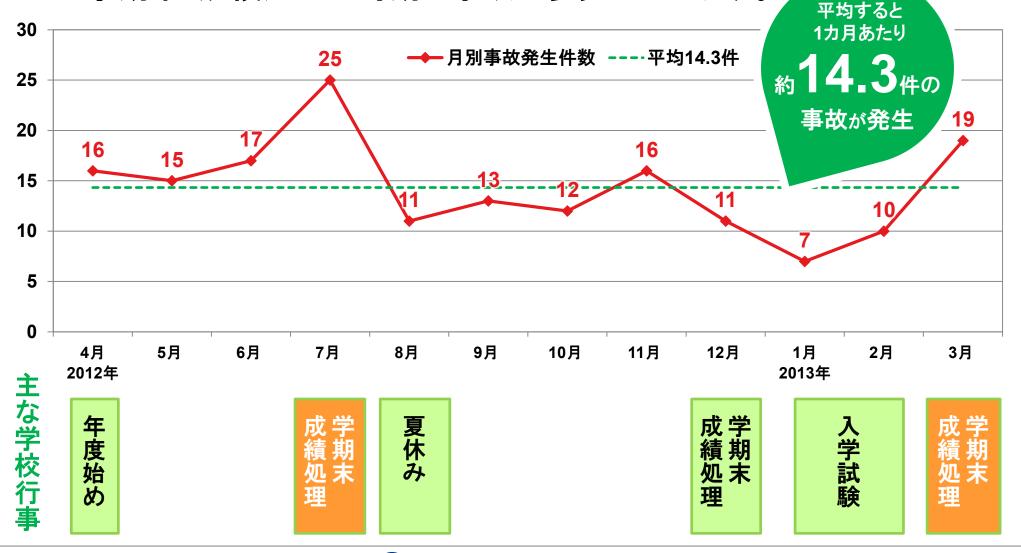
◆ 先生が取り扱う個人情報の件数は、学校種ごとに特徴があります。 先生が持つ情報量の違いが、漏えい件数にも影響しています。





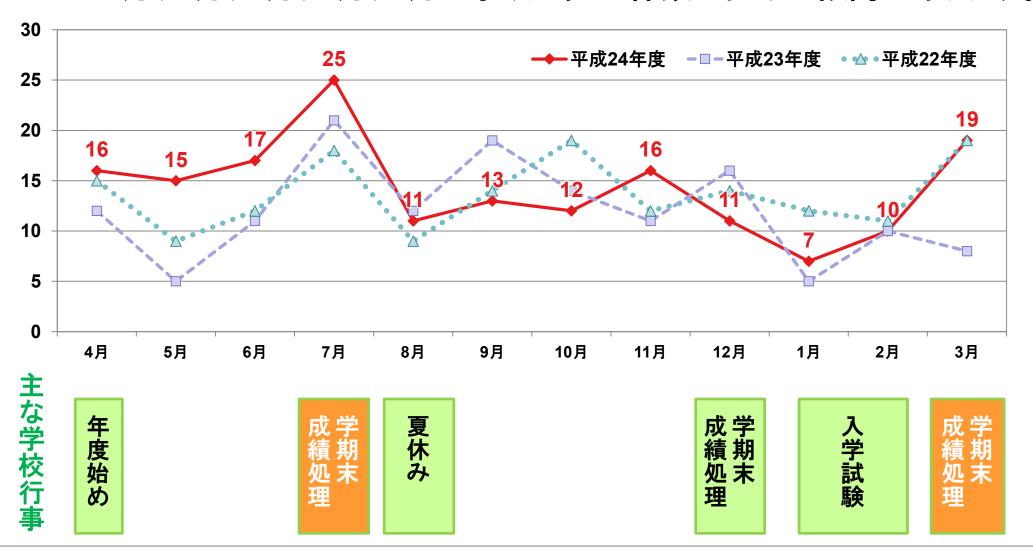
平成24年度 月別 事故発生件数

◆ 学校行事の時期によって、発生件数にばらつきが見られます。 学期末・成績処理の時期に事故が多発しています。



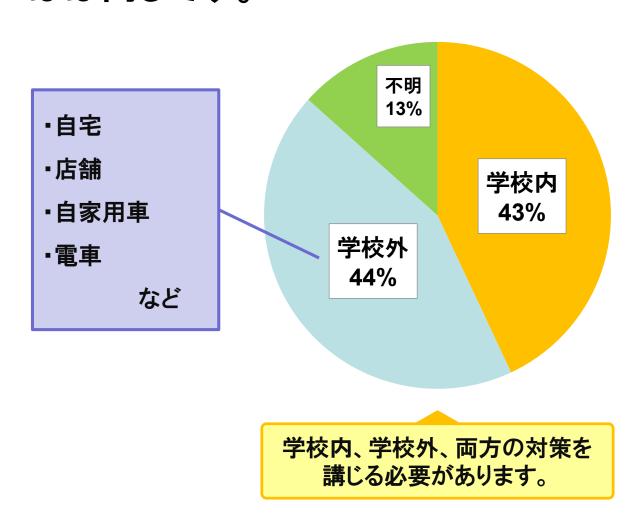
月別 事故発生件数 過去3カ年の比較

◆毎年、学期末・成績処理の時期には事故が多発する傾向があります。 一方、5月、8月、1月、2月は事故の発生件数が少ない傾向にあります。



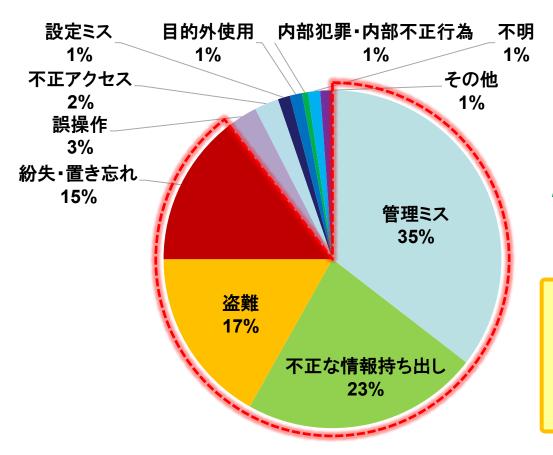
平成24年度 発生場所別 事故発生比率

◆学校内で発生した事故と学校外で発生した事故の件数はほぼ同じです。



平成24年度 種類別 事故発生比率

◆書類や、USBメモリ、パソコンなどの「管理ミス」「不正な情報持ち出し」 「盗難」「紛失、置き忘れ」が全体の約90%を占めています。





傾向

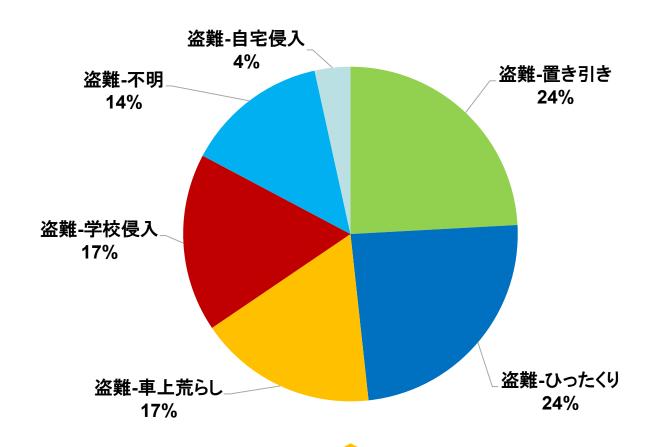
一般企業と比較すると盗難、不正な情報の持ち出しが多く、誤操作が極端に少ないといえます(P18参照)。

※事故の分類については、P16-P17に記載しています。



平成24年度 種類別 事故発生比率(「盗難」詳細内訳)

◆置き引きやひったくり、車上荒らしなど、盗難の手口はさまざまです。

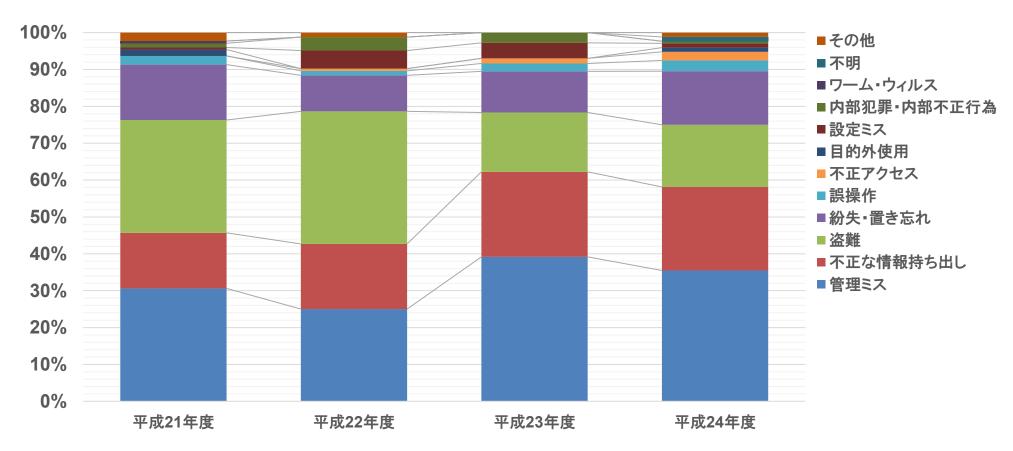


個人情報を校外へ持ち出す場合と、学校内で管理する場合、両方の対策が必要です。



種類別 事故発生比率 過去4カ年の比較

◆ 経年で見ても、「管理ミス」「不正な情報持ち出し」「盗難」「紛失・置き忘れ」が 多く発生しています。前年度と比較して、平成24年度は紛失・置き忘れの発生比率が やや高い結果となりました。

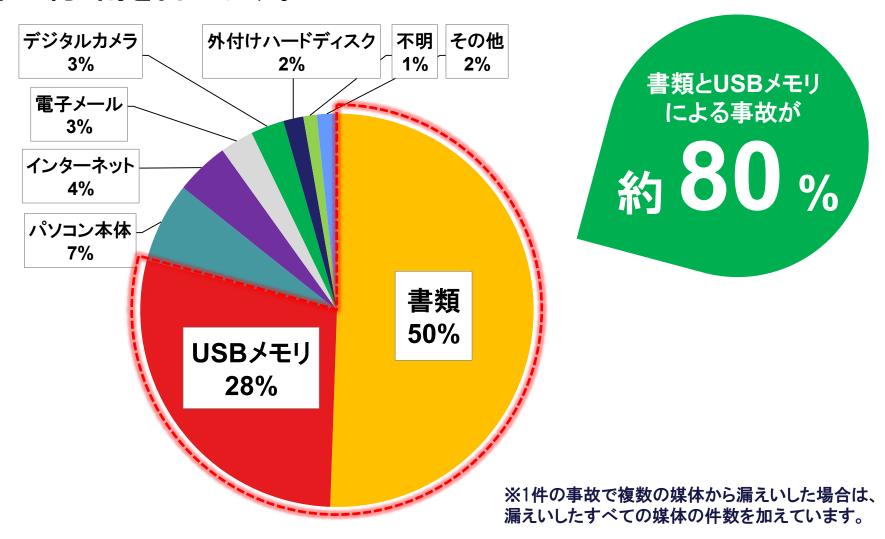


※事故の分類については、P16-P17に記載しています。



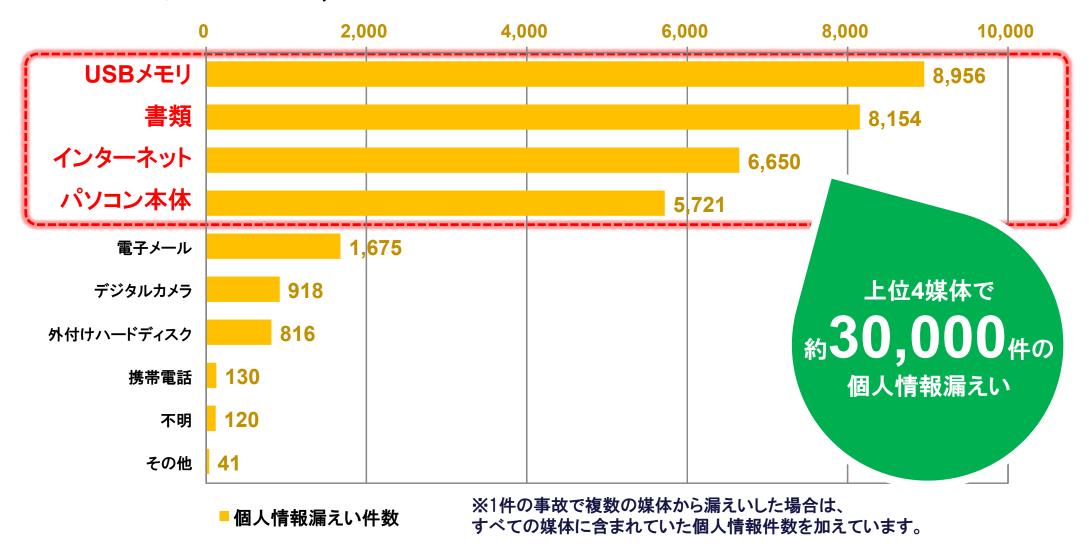
平成24年度 漏えい媒体別 事故発生比率

◆ 漏えいした媒体別では、書類が全体の半数を、USBメモリが 全体の約3割を占めます。



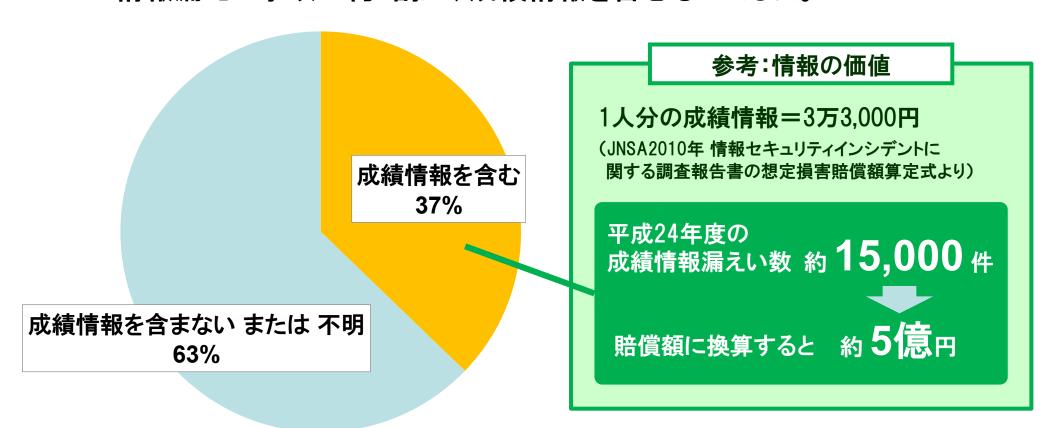
平成24年度 漏えい媒体別 個人情報漏えい件数

◆ USBメモリからは約9,000件の個人情報が漏えいし、 書類からは約8,000件の個人情報が漏えいしています。



平成24年度 成績情報が含まれていた事故の割合

◆情報漏えい事故の約4割が、成績情報を含むものでした。



成績の情報は非常にデリケートな情報であり、漏えいが発生した場合に 児童・生徒、保護者に与えてしまう影響は多大なものとなります。先生が 校務作業で取り扱う機会も多いため、より注意する必要があります。



情報漏えい事故の発生状況 まとめ

- ◆学期末・成績処理の時期には事故が多発する傾向があります。
- ◆漏えい経路の大半は書類とUSBメモリで、 事故発生件数の約80%を占めています。
- ◆事故の種類は、「管理ミス」「不正な情報持ち出し」 「盗難」「紛失、置き忘れ」が全体の<u>約90%</u>を占め ています。

事故が発生しやすい時期や媒体、原因を把握した上で、 効果的な対策を取りましょう。



補足:事故の種類 分類名の解説(1)

◆ 本資料では、情報セキュリティ事故の種類を次のように分類しています。

事故の種類	どのような事故か
不正な情報持ち出し	業務上の必要性などからルールを逸脱して情報を持ち出した結果、情報漏えいした場合。
	※ルールを逸脱して持ち帰った結果、盗難にあったり、ファイル交換ソフトで 漏えいした場合も、不正な情報持ち出しに分類する。
盗難	第三者によって <mark>情報記録媒体(USBメモリ、パソコンなど)と共に情報が盗まれた場合。</mark> 車上荒らし、学校侵入による窃盗など。
	※保存された情報のみを盗難された場合は、不正アクセスに分類する。
管理ミス	学校内・組織内での取り扱いが不適切だったため、紛失や行方不明となった場合。 作業手順の誤りや、情報の公開、管理ルールが明確化されていなかったために 業務上において漏えいした事故。 <mark>原因が学校・組織の管理体制</mark> にある。
	※管理ミスによって盗難が発生した場合は盗難に分類する。 ※校内において、管理が行き届かずに誤って廃棄した場合も含む。
紛失・置き忘れ	持ち出し許可を得た情報を、持ち出し先や移動中に置き忘れたり、紛失した場合。 個人の管理ミスによって発生した場合。
	※校内で管理すべき情報を紛失した場合は、管理ミスに分類する。



補足:事故の種類 分類名の解説(2)

事故の種類	どのような事故か
設定ミス	ユーザがWebサーバやファイルのアクセス権などの <mark>設定を誤ったことによって</mark> 情報漏えいした場合。
誤操作	あて先を間違えたり、操作ボタンを間違えて押したりするなどの、 人間の作業・行動によって情報漏えいした場合。
不正アクセス	外部の第三者が、主にネットワークを経由して不正にアクセスを行い、情報漏えいした場合。
	※内部の人間の不正アクセスの場合は、内部犯罪・内部不正行為に分類する。
内部犯罪· 内部不正行為	内部の人間が、不正アクセス、その他不正な行為によって情報を持ち出し、悪用した場合。
ワーム・ウィルス	ウィルス・ワームによって、情報が漏えいした場合。
バグ・ セキュリティーホール	OSやアプリケーション等の既存のソフトウェア上のバグ・セキュリティホールが 原因で情報が漏えいした場合。
目的外使用	個人情報を当初の目的以外の用途に使用した場合。開示範囲外を超えて公開した場合。
その他	上記のいずれにも該当しないもの。
不明	原因が不明のもの。

参考:他業種を含む情報漏えい事故の分析結果

2012年の個人情報漏えいインシデントの分析結果(抜粋)

3.4 原因

(1) 単年分析(件数)

目的外使用 バグ・セキュリティホール 11件 0.5% _ワーム・ウイルス 内部犯罪·内部不正 23件 行為 1.0% 0.4% 30件 その他 1.3% 8件 不正アクセス。 0.3% 35件 1.5% 不明 不正な情報持ち出し .11件 0.5% 2.5% 88件 3.7% 紛失・置忘れ 189件 8.0% 管理ミス 1,391件 誤操作 59.0% 474件 20.1%

図 3-9: 漏えい原因比率 (件数)

3.5 漏えい媒体・経路

(1) 単年分析(件数)

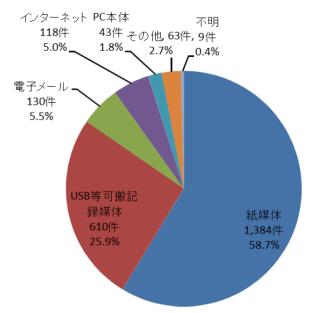


図 3-16:漏えい媒体・経路(件数)

出典:NPO 日本ネットワークセキュリティ協会(セキュリティ被害調査ワーキンググループ) 「2012年情報セキュリティインシデントに関する調査報告書~個人情報漏えい編~」



本資料の利用について

◆本資料は、学校内での啓発活動、研修会などで ご利用いただけます。資料の利用を希望される方は、 利用条件をご確認の上、ISEN事務局までご連絡ください。

ISEN事務局

〒153-0061 東京都目黒区中目黒1-8-8

目黒F2ビル1階(株式会社JMC内)

TEL:03-6890-8716 mail:pm@jmc.ne.jp

利用条件

http://school-security.jp/pdf/contents_rule.pdf

お問い合わせフォーム

https://fs220.xbit.jp/y592/form3/

https://fs220.xbit.jp/y592/form5/

